



奈良女子大学同窓会佐保会

## 滋賀支部だより

平成 30 年 3 月 1 日  
佐保会滋賀支部

今回の支部だよりは、総会のご案内、《こんにちは☆支部会員さん》、おうみ佐保塾の開催報告などを載せています。佐保会報、ならじよ Today とあわせてお読みください。

### 平成 30 年度佐保会滋賀支部総会のご案内 **今年の支部総会は例年と異なり第二日曜日です**

日時：平成 30 年 6 月 10 日（日）10：30 より（受付 10：15）

会場：琵琶湖ホテル 懇親会費：5,000 円 本部会費：1,500 円 支部会費：1,000 円

総会・講演会・懇親会

講演会 紙と手と歌と ～脳と遊んで生活を豊かに楽しく～

講師：古市久子氏



プロフィール：滋賀県日野町出身。

1967（S42）年 3 月奈良女子大学文学部教育学科体育学専攻卒業。京都大学大学院教育学研究科（修士課程）修了の後、1969 年に奈良女子大学文学部助手。5 年半後退職し、夫の転勤によりカナダのエドモントンにて 2 年間在住。

帰国後、48 歳で大阪教育大学（幼稚園教諭養成課程）の専任講師として再就職。2006 年に愛知東邦大学教授として名古屋に単身赴任する。人間学部長、教育学部長歴任の後、理事、学長補佐として勤務、2017 年 3 月をもって、退職した。

八幡市の教育委員長の経験もあり、現在は八幡市の「子ども・子育て会議」や「総合計画審議会」の委員を務める。草取りが趣味。

著書に、『身体表現』（北大路書房）、『保育表現技術—豊かに育つ育てる身体表現』（ミネルヴァ書房）、『ならぬことはならぬ』（唯学書房）などの他に、エッセイ集『ライフコンチェルト』（東方出版）、『あしたのあなたへ』（春風社）がある。

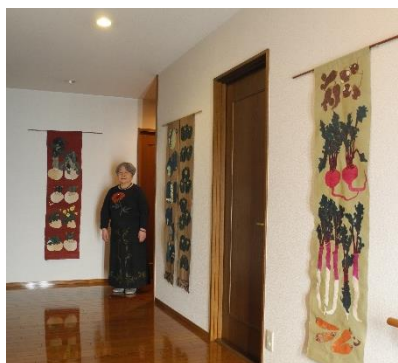
←『あしたのあなたへ』より



講師からのひとこと：手は脳の出張所 1 番地。幼い頃は手遊びなど手を多く使って育ちます。年を重ねると必要な事のみ行い、使わない脳の部位を劣化させます。普段使わなくても、意識的に脳を刺激することは大事です。特に、脳が楽しいと感じることは身体全体を活性化させます。

今回は夢中になれて脳が喜ぶ遊びを紹介します。一枚の折紙で立体のバラを作ること、歌いながら手遊びをすることなどですが、同時に違う動作を行うことが、頭脳を活性化させることが今注目されています。それは小さい私事ですが、社会で別の世界と出会う機会になるかもしれません。

## 《こんにちは☆支部会員さん》 vol. ②



今回は、草津市在住の忽那靖さん（S42 理動）を訪問しました。約25年前、宮脇綾子氏のアップリケ作品に魅せられ、加藤郁子先生に師事されて本格的に学んでこられました。

古裂によって表現された静物画を拝見するのだと思ってお伺いした私の予想を超えた大作の作品群が、まず玄関ホールで出迎えてくれました。

大学では陸水生態学を専攻し、その後もプランクトンの分類調査を通して生物的水質調査に関わってこられた忽那さんは、幼い頃から手芸に親しんでこられたそうです。作中の魚やミジンコは生き生きとして可愛らしく、山菜類や花々の表現にはアールヌーボー的な美しさが漂います。命あるものと、その命が刻んできた時間への愛…と言えば良いでしょうか、独特の世界が数々の作品に込められていました。

例えば、収穫直後の瑞々しい蕪が時の経過と共に萎び、最後には黄色の花を咲かせて果てていく…その全ての相が同一画面に配置されています。枯れた蕪の美しさ、しかも素材はコーヒー店で使い古されたネルです。対象となる生物と素材となる布、その両方が刻

んできた時間を愛おしむ…。

紙面では実物の魅力がお伝えしきれず残念です。忽那さんは近鉄文化サロン（奈良）、毎日文化センター（大阪）でご指導もなさっております。個展のご開催を熱望しつつ、取材を終えました。

文 高原早苗（S60 文社）

写真 井上加代子（S46 家被）



\*滋賀支部ホームページの「会員の作品」欄をご覧ください。ほかの作品も紹介しています。

### 第17回・第18回おうみ佐保塾

今年度、おうみ佐保塾は、滋賀県立安土城考古博物館学芸課副主幹・高木叙子氏を講師にお迎えして、10月6日（金）11月17日（金）2回にわたり、「近江歴史探訪 安土城」と題してお話しいただきました。

10月6日（第17回おうみ佐保塾）は、草津市立まちづくりセンターにおいて講演「織田信長と安土城」。信長と言えば佐久間長盛や浅井氏への仕打ち、比叡山焼き討ちなどから、とかく冷酷・残忍ととらえがちですが、実は生涯一度も盟約・和睦を破ったことがなく、純粋な心の持ち主であったなど意

外とも思える織田信長の人物像と安土城築城に至るお話を。そして11月17日(第18回)は、安土城跡に近い安土城考古博物館で、信長による清州城から始まる築城の歴史、安土城跡整備と一部復元についてのお話をお聞きしました。

織田信長=尾張、美濃の大名という印象を持っていましたが、今回も多くの方々にご参加いただき、滋賀県内における信長への関心の高さに自分の認識不足を恥じました。

安土城の特徴としてまず挙げられることは、築城の目的です。それまでの城は、戦うための臨時の砦でした。それが、安土城やその後の豊臣大坂城などになると、恒久的な礎石構造、威容を誇示する複雑な構造の石垣、そして守護の館に見られる瓦葺の建物等が示す支配の拠点としての城だということです。まさに権威の象徴としての天下人の城であると言えるでしょう。

その天下人の城・安土城を信長は、天正4年より築き始めます。それは、信長が武田勝頼を長篠の合戦で打ち破った翌年にあたります。尾張国守護代の三奉行の一人の家の子として生まれた信長が尾張・美濃の戦国大名になり、宿敵武田氏を滅ぼし、信長の「天下布武」は、もはや時間の問題でした。そして、3年後の天正7年、天守が完成して信長が移り住みました。信長の思惑通りに歴史が進めば、安土城は正に天下人の城として、国の内外にその威容を誇ったことでしょう。しかし歴史はそうはならず、天正10年本能寺の変により信長が殺害され、その後、明智光秀が羽柴秀吉に山崎の合戦で敗れると、天守と本丸は焼失します。威容を誇った天守はたった3年間の夢幻でした。それでも安土城は、織田氏の天下を象徴する城でした。信長の嫡孫・三法師が叔父・信雄を後見として入城します。が、これまた3年後の天正13年、小牧長久手の戦いで、信雄が秀吉に屈すると、織田氏の天下は終焉を迎え、それとともに安土城もその役目を終え廃城となります。その後江戸時代を通じて、信長が城内に建てた摠見寺がその菩提を弔いながら、現在に至るまで城跡を守り続けています。

平成元年から20年にわたる「特別史跡安土城跡調査整備事業」により、大手道やそれを挟む伝羽柴秀吉邸や伝前田利家邸とされる屋敷地、物資を運ぶための搦手道、天守・本丸跡などが明らかになり、「天下布武」を象徴する城郭の規模・容姿が解明されてきました。本丸御殿は、清涼殿と同じ平面をもつ建物であることから、ここに天皇の行幸を夢見た信長の姿をうかがえるのかもしれませんが。

たった三年、琵琶湖を見下ろす安土山に出現した五層七階の高層天守を構えた天下人の城「安土城」。出土する瓦などの装飾から想像できるその絢爛豪華な姿とその運命の儚さを前に、参加いただいたみなさまは何を感じていただけたでしょうか。

「人間五十年、下天のうちを比ぶれば、夢幻の如くなり。ひとたび生を得て滅せぬもののあるべきか」  
～信長が好んだとされる謡曲「敦盛」の一節

信長の果たした役割、それは戦うための城から見せるための城づくりにとどまらず、中世以前の社会を、楽市楽座をはじめ、商人・職人の集住促進による城下町形成など近世以降の社会へ大きく影響を与えたものといえるでしょうか。

文 松本匡代 (S60 理物)



## お知らせ

### 佐保塾 史跡めぐり

今年度は佐保会本部との共催で史跡めぐりを開催します。11月下旬に湖南三山をバスで巡る予定です。紅葉の美しい国宝のお寺をご一緒に訪れませんか。詳しい日程は追ってお知らせします。

### 本部行事への参加のおすすめ

- ・ひな人形展：平成30年4月2日（月）～7日（土）10時30分～16時
- ・講談公演（講談を楽しむ会）：平成30年4月7日（土）13時30分～15時30分  
講師：旭堂南照（垣内富貴子）氏（S58 文体）
- ・講演会：平成30年5月26日（土）13時30分～15時30分  
講師：黒川伊保子氏（S58 理動）  
演題：「人工知能は天使か悪魔か～女たちが鍵を握る、人類とAIの近未来～」  
人工知能の草分けの研究者であり、男女脳の専門家として歩いてきた35年。  
その研究成果をお話しいたします。
- ・七夕コンサート「ヘルマンハーブ演奏会」：平成30年6月30日（土）  
演奏者：梶原千沙都氏（S58 家住） 詳細は佐保会ホームページをご参照ください。

### 事務局より

- ・皆様の作品をお寄せください。ホームページ・支部だよりに掲載させていただきます。
- ・会員の皆様の受賞の情報などご存知でしたらお知らせください。広くご紹介したいと思います。投稿・情報のご提供は支部長までお願いします。
- ・3月15日までに平成29年度の会費納入をお願いいたします。未納の方には払込取扱票を同封していますのでできるだけゆうちょ銀行のATMで払い込みください。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方はATMを利用して口座間振替（月3回まで手数料無料）のご利用をお願いいたします。既に払い込み済みの場合はご容赦ください。
- ・住所・電話番号などを変更された方は支部長までご連絡ください。
- ・滋賀支部ではホームページを開設しています。「佐保会滋賀支部」でご検索ください。

### ＜編集後記＞

一昨年のおうみ佐保塾で訪れた堅田には、家が近いこともあってその後も散策に訪れています。一休禪師が若いころを過ごされた祥瑞寺の紅葉は見ごたえがありました。昨年のテーマであった安土城に関するテレビ番組を録画して、それを見ながらこの原稿を書いています。

一つの行事から興味が広がり、ささやかな楽しみを味わっています。（浅野）

